

藝園草牧

第三卷・第十二号

昭和二十八年五月十五日第三種郵便物認可
昭和三十年十二月一日(毎月一回)發售



雪印種畜株式會社

冬の果樹害虫対策



果樹栽培に害虫防除が最も重要な行事の一つである事は今更言うまでもなく、どんなに優秀な品種の果樹でも害虫の被害を受けては、美しい果実を捻らせることの出来ないのは勿論、肝腎な樹自体まで台無しにされてしまいます。しかも害虫の種類ははなはだ多く、それぞれ特異な方法で大切な果樹を襲撃してくるのですから、これ等を撃退するのは全く容易なことではありません。中でもとりわけ厄介なのはダニと介殼虫の仲間である事は、實際栽培家の皆様が常々痛感されているところと思います。

このダニや介殼虫は、薬剤に対する強い抵抗性と旺盛な繁殖力で執拗に喰ひ下り、今迄いろいろな防除法が考えられ実施されているにもかかわらず、なかなか思うように撃滅するのが困難です。一口にダニや介殼虫と言ってもいろいろの種類があり、例えばサビダニ、アカダニ、ハダニ、ヤノネカイガラムシ、カメノコカイガラムシ、イセリヤカイガラムシ、クワノコナカイガラムシ

シ等々頑固な連中が虎視眈々、冬の間はじつと寒さに耐えて時期到来を待っているのですから全く油断が出来ません。

それにまた、最近ほ更に厄介な新種アカダニが発見されました。それではこれ等のダニや介殼虫は一体冬の間にどのような生活をし、またどのような場所にひそんでいるのでしょうか？害虫の習性を知つてこそ始めて有効適切な防除が可能でです。

人間が炬燵に噛りついて寒がついている冬は、害虫にとつても決して快適な季節ではなく、活動力、繁殖力も鈍つていく訳ですから、この時期を狙つて越冬虫あるいは越冬卵の駆除を行うことははなはだ能率的で、翌年の発生を著しく減少させることができます。冬期の農閑期を有効に利用して害虫のいない果樹園を実現させるために、これから害虫の越冬状況をお話ししながらその防除対策を考えることに致しましょう。☆アカダニ……ヤノネカイガラムシととも

に柑橘栽培家を最も困らせる害虫です。普通は卵で越冬すると言われていますが、気温の高い時は冬でも発育と繁殖を行う厄介な元凶者です。三、四月には他の害虫に魁けて最も早く活動を始め、五月には春季の最高棲息数に達しますから、冬の間葉裏や古繩等にひそんでいるのを狙つて、出鼻を叩いて置くことがその後の防除を非常に楽にします。

☆サビダニ……アカダニに劣らぬ柑橘の大害虫です。冬は成虫あるいは卵で老皮下または葉で越冬します。

☆ナシハダニ……普通は卵で越冬し、その場所は結果枝の葉痕、枝梢の傷口の癒合した部分、枝の結び繩の中です。二十世紀や菊水等石灰ボルドウ液の撒布回数が多い果樹では、特に発生がひどくなりますから注意が大切です。

☆桜桃ハダニ……最近問題になつている赤ダニの新種で、パラチオン剤でも余り効目がない難物ですが、DN剤の撒布で駆除することが出来ます。

☆ヤノネカイガラムシ……柑橘害虫のナンバー・ワン、ゴマミカンのゴマの正体はこの虫です。受胎した雌虫で越冬するのが普通ですが、前年中に低温に会つて発育を中止した未成熟の雌のまま越冬するものもあります。

葉と葉が重なりあつたところでは葉表にも寄生しますが、主として葉裏にひそんでいる習性を持っています。五月になつて産卵を始めても、幼虫は暗いところを好むので発生に気が付かない事が多く、外部に出

てきて気が付いた頃には時既に遅し。優勢を誇る敵を殲滅するのは容易なことではありませんから、冬の間には発生を抑える努力をしたいものです。

☆クワノコナカイガラムシ……りんご、なし、かき等の害虫で、主として卵で剪定の切口、老皮下、枝幹の割目、棚と枝との結び繩の内部で越冬します。マツモトコナカイガラムシ等とともに、最近袋掛け栽培をしている所には特に被害が著しいようです。

☆フジノコナカイガラムシ……なし、かき、ぶどう等に寄生し、最近本種の被害が目立っています。荒皮間隙、剪定枝の切口等に潜伏していますが、越冬状況は明らかではありません。

☆イセリアカイガラムシ……柑橘の外、りんご、なし、かき等広範囲に亘る果樹を加害します。天敵ベグリアテントウムシの出現によつて大いに痛めつけられています。最近害虫防除の目的の薬剤撒布は、同時にこの天からの義勇軍をも殺す結果になつていきますから、冬期の防除を怠ることはできません。主として幼虫、稀には成虫で越冬します。

☆アカマルカイガラムシ……主として柑橘を加害し、果実についた場合は寄生部位が着色しないので著しく商品価値を落します。油断すると急激に繁殖し思わぬ損害を受けます。受胎した雌成虫で葉または枝に寄生して越冬します。

防除の方法

以上いろいろなダニや介殼虫の越冬状態

について述べましたが、その対策にはどんなものがあるでしょうか。

従来防除法としては青酸ガス燻蒸と機械油乳剤の散布が行われています。

青酸ガス燻蒸……主に柑橘に対して行われ、介殻虫やその他の害虫の徹底的駆除には優れた方法ですが、具体的などは皆様十分御承知と思いますから省略します。

機械油乳剤の散布……介殻虫やダニ類の駆除方法として三月に石灰硫黄合剤が散布されますが、発生が多い場合は十分な駆除は困難なので、冬期機械油乳剤の散布が必要です。ここ数年米抵抗性のあるダニの出現のためか、石灰硫黄合剤のダニに対する効果が少なくなつたと言われており、この機械油乳剤散布の重要性はますます加わつたわけです。撒布時期は、各種の落葉果樹に行われている樹幹の皮削り後一月頃まで、それ以後になると発芽を遅らせる心配があります。機械油乳剤で何時も問題になるのは葉害ですが、薬剤そのものは悪くなくとも、豊作で多量の収穫を挙げた場合、地下水の排水不良や著しく地際に施肥を行つたため、根の発育が不良な場合等で樹勢の落ちてくる時には、外見上何等異常がなくとも葉害を伴ない易く、樹の生理条件を絶えず注意していなければなりません。

戦後農業界に颯爽と登場したDDTやBHCの効力は、誠に驚歎すべきものがありその威力を知らぬ者はありませんが、この新兵器もダニや介殻虫には余り効目がなく、最近ではこれ等の天敵や競争相手の害虫類を殺すため、却つてダニ類や介殻虫の

跳梁を助長するような結果にさえなつていると言われています。

しかし、ダニや介殻虫を殺す新しい農薬が決してないわけではありません。いやそれどころかどんどん新しい薬が作られて、ダニや介殻虫駆除に目覚ましい成果を挙げています。DNマシソール、三共DN乳剤、DN粉剤、サツピラン、更には有機燐製剤のTEPP、パラチオン剤、EPN、侵透性殺虫剤のペストックス、シストックス等種々の注目すべき薬剤が出ています。勿論これ等はそれぞれ特徴のある薬剤で、特に殺虫力の優れたもの、あるいは殺卵力の強いもの等独特の価値を持つていますが、ダニや介殻虫の駆除剤を考える場合、DNマシソールは他の薬剤に見られない種々の特長があります。

DNマシソールの有効適切な使用によつて、ダニや介殻虫の撃滅も決して困難な事ではありません。冬期農閑期を利用した皆様の努力で害虫を駆除し、美しい果樹園から豊かな収穫を挙げようではありませんか。

DNマシソールの特徴

一 機械油にDN剤を配合

本剤は冬期果樹害虫の防除剤として使用されている機械油九五・〇%と、ダニ類介殻虫の特効薬DN・五%を主剤とする新製品です。

二 確実な効果と樹幹保護

機械油とDNの相互効果により、冬期果樹害虫の越冬卵並びにダニ、介殻虫に対し、

徹底的な殺滅効果を挙げるとともに、防寒作用も期待できる新強力殺虫剤です。

三 介殻虫とダニ類を葉害なく同時駆除

柑橘等の介殻虫類徹底的駆除を狙つて行われる青酸ガス燻蒸は、ダニに対して余り効果がないので、燻蒸前後にダニの駆除を行う必要のある場合、従来までは主として石灰硫黄合剤が用いられてきましたが、この両者の使用時期は相當に離さないと葉害を生ずる恐れがあります。しかし、DNマシソール、三共DN乳剤等はこの心配がありません。

適用害虫名及び使用法

一 適用害虫名と使用量

作物名	主な害虫	適用時期	撒布量	水一斗に對する薬量	稀釈倍数
柑橘	ヤノネカイ、ガラムシ、ダニ類及び越冬卵	冬期	二〇〜二五合	五〇〜四〇倍	
梨、柿、りんご、桃及びその他の落葉果樹	カイガラムシ、ダニ類その他の越冬卵	冬期	三合	三〇〜四〇倍	

二 使用方法

本剤を最初少量の清水でよく練り合わせ、次いで所定量の水を追加して十分攪拌すると乳白色の乳液になりますから、これを十分よく洗つた噴霧器に入れて噴霧して下さい。

牧草と園藝 十二月号 目次

◆表紙写真——晩秋の薄陽を惜しみつつ——
(北海道大学農場にて)

◆冬の果樹害虫対策……………北海道三共株式会社…二
◆草の生活形と水度……………田垣住雄…四
◆有利なクリムソンクローバーの栽培……………安孫子六郎…五
◆葉煙草栽培畑の活用と水田裏作の利用による酪農五カ年計画の結果について……………小野寺義一…七
◆スーダングラスの病害……………なかの…九
◆放牧地における牧草の混播……………中野富雄…一〇
◆チモシー、ライグラスの麦角病……………なかの…三
◆庭の中のリズム……………岸村茂雄…四
◆一代雑種について……………編集部…六

三 他剤との混合

混用してよいもの………硫黄水和剤、デリス剤、除虫菊剤、DDT剤、BHC剤、パラチオン剤、グラミン。
混用していけないもの………石灰硫黄合剤、ソーダ合剤、石灰ボルドウ液、カゼイン石灰等のアルカリ剤。

使用上の注意事項

- (一) DN剤は強力な薬剤ですから、指示濃度より濃厚には使わないよう御注意下さい。
- (二) 落葉果樹に対し発芽期以後の使用はできません。また樹勢の弱つている場合、高温の場合は避けて下さい。
- (三) 原液はよく栓をして貯蔵し、使用に際してはよく振つてから使用して下さい。
(北海道三共株式会社提供)